(本號八面) (明治廿五年三月十一日遞信省認可) 明治二十八年十一月二十一日 第四千四百四十三號 (定價金二錢五厘)

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

明治廿八年十一月廿一日木曜日(壬、申)
舊曆乙未十月五日
日出午前六時二十四分 日入午後四時三十三分
月出午前十時四十六分 月入午後八時二十六分
滿潮午前七時五十六分 滿潮午後八時十八分
(西曆一千八百九十五年)
年始より三百二十五日 年末まで四十日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價(府外遞送には此他後に揭ぐる遞送料を要す)

一號 貳錢五厘 ○一箇月 前金五拾錢 ○三箇月 前金壹圓四拾五錢 ○六箇月 前金貳圓八拾五錢 ○一箇年 前金五圓六拾錢 ○月曜日休刊(此他大祭祝日年始年末一切休刊せず)

●●前金 一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戾する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一 日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津 一箇月 金拾三錢
二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國 一箇月 金六拾錢
三 北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋 一箇月 金三拾錢
四 香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲 一箇月 金六拾五錢
五 露領浦鹽斯德、淸國諸港 一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●●●●廣告料定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき旨に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐること尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にも報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直ぢに本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に寄したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戾せず又本社に保存せず

時事新報

外交と新聞紙

新聞紙が內外の政治に就て議論を上下するは勝手なりと雖も外交の事は性質極めて銳敏なるものなれば殊に注意を要する所にして內治に關しては其所論假令ひ當を得ずとも影響する所は內々の事に止まるを以て甚だしき差支なけれども外交問題に至りては趣を異にし新聞紙が無用の激論を費やし又は虛報を傳へたるが爲め外國人の感情を損ひ當局者に迷惑を及ぼすことなきを保せず呉れ〴〵も愼しむ可き所のものなり北米合衆國は地勢遠く歐洲と離れて强國と境を接せざるが故に自然國際上に紛紜の起る可き機會少く恰も局外に超然たる有樣なりしが近來彼國の政客中には之を堪へ難く思ひ自から進んで外交の波瀾に投ず可しと主張する一派現はれ同時に此派に屬する新聞紙は苟も國際問題とあれば針小を棒大に記して漫に人心を攪擾せしむるのみか甚だしきは彼我の間に些細の行違にてもあれば直に戰端にても開かるゝかの如く云囃し先方の國をして不快の念を抱かしめ不都合を釀すの事例も少なからざるよしにて識者の常に嘆息する所なりと云ふ事柄は異なれども既に我國に於ても淸國との戰爭中、我艦隊の夜に乘じて威海衛を襲ひ一擧して攻略せんとせしを英國艦隊の妨害に逢ひし爲め目的を遂ぐるを得ず空しく引返へしたりなど如何なる邊より出しものか全く跡方もなき風說起り新聞にまで之を記載せしかば淺慮の輩は能くも實否を詮索せずして早吞込に右の風說を妄信し英國こそは正しく支那を助けて我に仇するものなりと非常に憤慨せしことは今尙は人々の記臆する所ならん凡そ新聞紙の勢力は人事の繁多と共にます〳〵增進し多數の人民は內治外交何れに就ても紙面の所記を見て眞實なりと信ずるが故に若し丁寧に事の本末も糺さずして早計なる推察を下し無根の事を記し無稽の論を吐かんか一般の人心は忽ちこれに激せらる可きのみならず外國人が我國民の意志を知らんとするにも亦重に新聞に依賴するの常にして之ぞ紛れもなく國民一般の精神なる可しと推量し漸く我を厭ふて終には國交際に意外の障礙を及ぼさずとも云ひ難し支那との戰爭以來日本の名聲は頓に世界に轟き歐米諸國悉く新强國として畏敬し我一擧一動は都て彼の注目する焦點となりたるを以て從て今後外國との關係ます〳〵複雜を加ふるに相違なければ此際新聞紙の記事論說の如きは注意して輕忽の筆法を謹まんこと我輩の切に希望する所なり

官報

○告示

大藏省告示第九十四號

一 軍事公債額面二十六萬二千五百圓

但發行價格證書額面百圓ニ付金百一圓十錢

右明治二十八年大藏省令第三號ニ據リ本月十九日之ヲ發行セリ

明治二十八年十一月二十日 大藏大臣 子爵渡邊國武

大藏省告示第九十四號參照

大藏省令第三號(明治二十八年十月四日)

明治二十七年法律第二十五號ニ據リ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例第六條第二項ノ方法ヲ以テ證書額面一千萬圓ヲ限リ漸次軍事公債證書ヲ發行ス

此公債利子ハ一箇年百分ノ五トス

此公債償還利子仕拂其他ノ取扱ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ規定ニ準據スヘシ

法律第二十五號(明治二十七年十月二十四日官報)

淸國及朝鮮國トノ交涉事件ニ關スル軍資支辨ノ爲メ一億圓ヲ取リ一箇年六朱以下ノ利子ヲ以テ漸次公債ヲ募集シ若クハ借入金ヲ爲スコトヲ得

但募集借入ノ方法規約償還年限其他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄錄

第六條第二項

大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣其發行ノ翌月之ヲ告示スヘシ

海軍省告示第二十一號

明治二十七年(八月)海軍省告示第十號ヲ廢ス

明治二十八年十一月二十日 海軍大臣 侯爵西鄕從道

海軍省告示第二十一號參照

明治二十七年(八月七日)海軍省告示第十號ハ佐世保軍港及對州竹敷港幷仁位口ニ出入スル普通船舶心得ナリ

雜報

○金鵄勳章(海軍の受勳者 功四級は年金五百圓附)

功四級授金鵄勳章幷授旭日小綬章
海軍主計大監 原田 [illegible]　海軍主計大監 八淵 亨
海軍主計大監 佐久間銈一郎
海軍大佐 諸岡 頼之　海軍大佐 松永 雄樹
海軍大技監 植村 永孚　海軍大技監 赤峯 伍作
海軍大技監 前田 亨　海軍主計大監 村上敬次郎
海軍主計大監 土岐 裕

功四級授金鵄勳章幷授雙光旭日章
海軍大技監 佐雙 左仲　海軍大技監 山口 辰彌
海軍大技監 黑川 勇熊

功四級授金鵄勳章幷授單光旭日章
海軍々醫大監 吉田 貞準　海軍少技監 黑部 廣生

功四級授金鵄勳章幷敘勳六等授瑞寶章

○ソールズベリー卿の辭職

英國總理大臣ソールズベリー卿は老年となりて繁劇なる政務に堪へ難ければ辭職するならんとの風說は曾て行はれたりしが近頃再び同卿は總理の位置を甥なる大藏總裁バリフォーア氏に讓り又兼務なりし外務大臣には目下佛國駐劄の英國全權大使ダッフリン卿を以て代らしむるならんとの噂熾なりと近着の英國新聞に見ゆ

○子爵議員補欠撰擧名簿

來年一月八日貴族院子爵議員の補欠撰擧を行ふべきに付き岩倉爵位局長は一昨十九日その撰擧名簿を同爵者間に配付せりと

○世界第一快速の水雷艇

佛國海軍の外海用水雷艇フォルバンは同國アーヴルのノルマン造船所に於て建造し去る九月二十七日セルブールに於て公式の試運轉を爲したり而して豫定最大速力は二十九乃至三十ノットなりしが今回の試運轉に於ては三十一ノット二〇〇を表したり卽ち造船所の契約に依れる速力を超過すること一ノット以上にして今日までの水雷艇中速力に於ては其比を見ず故にフォルバンは世界第一快速水雷艇の名を冠すべし云々と佛國新聞に見えたり

○露國の外人鑛山業免許手續

黑龍江沿道總督は露國の資本家を誘引して烏蘇里地方に於て採炭業に從事せしめんとしたれども今日迄未だ其目的を達する能はず將來に於ても尙ほ或は然らんと思はるゝ事情あり然るに西伯利鐵道線路に當り浦潮斯德近傍に於て石炭を採掘するは極て緊要なるを以て遂に佛蘭西及び和蘭の資本家の組織したる外國會社をして黑龍灣の岸上に於てスウャト マカリエフスコエ炭田を採掘せしめんと欲し曩に其認可を申請したるに附き農務及官有地事務大臣は今日よりも更に寬大なる方針に依り身元確實なる外國人に對し沿海州及薩哈嗹嶋に於て鑛山業に從事する認許を與ふるの趣意を以て鑛業條例第二百六十七條第六項を改正するを必要且つ便宜なりとし其議案を大臣委員會に提出したり依て大臣委員會に於て此の議案を審議して左の如く議決したり

農務及び官有地事務大臣に委任するに豫め內務、大藏兩大臣及び黑龍江沿道總督と協議の上露國の臣民にあらざる企業者、外國會社又は無記名株式の露國會社に對し沿海州及び薩哈嗹嶋內に於て鑛山業を營み又は同業に關係するを許可するも國家の利益を戕害せずと認めたる場合に於て其都度右鑛山業の許可に關し相當の案を具して大臣會議に提議するの件を以てす

右は去る七月十八日勅裁を經たりと云ふ

○貿易商機關の私設

○貿易商機關の私[…]
張者にて今回資本金三十[…]
て鈴木豐介、津久井平右衛[…]
種々協議中なりと

○橫濱米穀取引所

○橫濱米穀取引所[…]
派の重役を以て組織する[…]
其人を得ざるを以て當新[…]
に第三、第四兩回の株金[…]
來年七月迄延期する事に[…]
願せしに不認可となりし[…]
進せし株式も今は下て一[…]

○橫濱絹綿紡績會社

○橫濱絹綿紡績會社[…]
會社は製絲器械を購入し[…]
の協議も整ひたれば十五[…]
八日頃臨時株主總會を開[…]

○硝子板の騰貴

○硝子板の騰貴 硝[…]
し且つ臺灣にて需要多き[…]
切を告げ相場頗る上進せ[…]

○車糖の競賣

○車糖の競賣 追々[…]
況と連れ賣行き中々宜[…]
宋品の騰貴に連れ漸時引[…]
の車糖競賣相場も小締め[…]
俵の取組み出來せりと

BAザラメ車 九圓三十[…]
B車糖 九圓二十五錢
HX車糖 七圓五十錢
PX車糖 五圓六十五錢

○探偵奇聞

第三回 心に掛[…]
却て說く安藤彌吉は暫[…]
を擧げて見れば面前に[…]
異樣の眼光[…]
彼の一室[…]
顔を見守り[…]
合ふて在る[…]
と落着きた[…]
も彼の一室[…]
るもの〻如[…]
情、交々浮[…]
に手を差延[…]
て後さへ振[…]
を閉ぢ內よ[…]
彌吉ァん、[…]
ァ退屈でた[…]
と愛嬌溢[…]
に間合もな[…]
二言三言、[…]
御目に掛[…]
しようと云[…]
ども熟々思[…]
彼の人は[…]
な男とは知[…]
看板で此[…]
あるに相違[…]
みとじや[…]
れに黑野[…]
如何やら[…]